

資料1-1

総会 第1号議案

特定非営利活動法人 鎌倉広町の森市民の会

2025年度(R7)事業報告書 (第24期：2025.4.1～2026.3.31)

§ 1 2025年度活動の総括

1. 単独運営2年目の総括

2025年度は単独運営2年目として「安定から発展」を目指し、以下の方針を推進しました。

【信頼される組織】信頼されつづける指定管理者となる！

市の水準書に基づく都市公園の維持管理を滞りなく実施しました。また、将来の「都市林」としての管理運営へと発展させるため、学識経験者との「保全管理計画」の策定協議会を立ち上げました。一方で、開園10年を経て園路舗装や護岸の劣化が顕在化しています。今後は、このような中長期的な視点での課題の対応を進めてまいります。

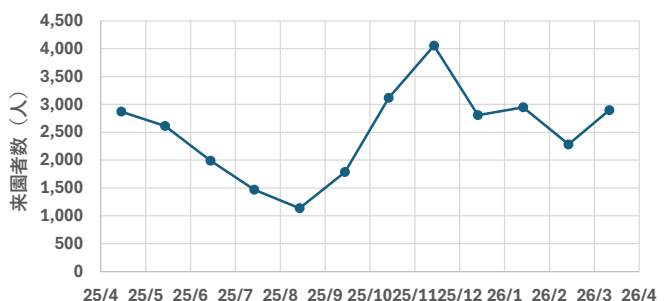
【バトンタッチ】多様な人材が育ち、次世代に引き継げる組織体制を創る！

次世代育成として延べ11教育機関、60回以上の環境教育支援を行い、3,500名以上に体験を提供しました。組織面では、事務局長交代を含む新スタッフの採用や、リーダー制・担当理事制の導入など、世代交代を見据えた運営体制の改善に取り組みました。

【つながり・ワクワク】新しい人の輪がつながり、わくわくが広がる広町の森にする！

年間の来園者数は約3万人に達し、多くの市民が広町の自然を楽しみました。また、HP リニューアルや SNS 連携により発信力を強化しました。ボランティア募集では、体験型への移行により、新たに22名の仲間を迎え入れることができました。

令和7年度(2025)来園者数推移 (年計 29,980人)



2. 反省点・課題

図1 来園者数月次推移

単独運営に伴う業務量の増大に対し、マネジメント面では依然として多くの課題が残っています。

組織運営の模索：フルタイムではない事務局体制の中で、急増した業務を適切に管理し、効率を上げることは苦慮しました。また、会員やボランティアの高齢化による減少に対し、募集活動をさらに加速させる必要があります。

経営基盤の安定化：指定管理選考委員会からも指摘されている「経営基盤の安定」に向け、財務面での一層の充実が求められています。寄付の呼びかけなど、安定的な収益構造の確立が今後の重要課題です。

次年度に向けた諸活動の評価と見直し：当法人は現在、より良い組織へと進化するための模索段階にあります。2026年度に向けては、これまでの活動や今後の計画を冷静に評価し、持続可能な活動を維持するための軌道修正やスリム化を柔軟に行ってまいります。

§ 2 事業区分毎の実績報告

1. 都市林づくりの活動を通じて、自然環境を保全する取り組みを行い、生物多様性の重要性を広く啓発する事業

(1) 里山復元事業 (5つの会 活動)

広町緑地の基本構想の目指す姿の実現のために、ボランティアによる里山復元活動を行いました。今年度の活動回数と参加人数を以下にまとめます。

表 1 市民ボランティア(5つの会)による里山復元活動の実績

年/月	活動回数 (回)										活動参加人数				
	田んぼ		畑		森	自然観察		散策路		総計	田んぼ	畑	森	自然観察	散策路
	定例	任意	定例	任意	定例	定例	その他	定例	任意		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
2025/4	4	5	3	11	2	1	24	1	1	52	260	57	15	55	10
2025/5	4	1	4	13	2	1	22	1	3	51	84	81	51	56	15
2025/6	4	2	4	9	2	2	20	2	0	45	409	93	16	71	10
2025/7	4	1	4	12	2	1	21	2	0	47	46	86	15	98	13
2025/8	4	0	5	12	2	1	16	1	0	41	37	67	10	32	7
2025/9	4	2	2	11	2	1	20	2	0	44	150	79	16	55	13
2025/10	4	0	3	6	2	1	17	2	0	35	210	54	16	43	9
2025/11	4	1	5	9	2	2	16	2	0	41	74	134	13	68	10
2025/12	2	0	3	8	2	1	17	1	0	34	17	73	16	48	9
2026/1	4	0	1	12	2	1	14	2	0	36	42	74	16	52	16
2026/2	4	0	3	7	2	1	15	1	1	34	44	41	19	58	14
2026/3	4	0	5	8	2	1	17	2	0	39	51	94	18	48	19
年計	46	12	42	118	24	14	219	19	5	499	1,424	933	221	684	145
総計	58		160		24	233		24		499	3,407				

(2) 自然環境モニタリング事業

水準書に準拠したモニタリング項目に加え、生態系保全の観点で重要な項目を選定し任意調査として実施しました。今年度の活動概要と活動回数の集計を以下に示します。

表 2 自然環境モニタリング活動概要と活動回数

	目的	時期	調査方法の概要	調査区画	活動実施月と回数													回数計
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ホタル	ゲンジボタル・ヘイケボタルの成虫の分布や個体数を長期的にモニタリングするとともに、それを通じて里地の水辺環境の状態とその変化を把握することを目的とする。	ホタルの発生時期に、個体数が最大を迎えるまでカウント数の推移を見ながら調査する。概ねゲンジボタルは6月、ヘイケボタルは6～7月にそれぞれ最低3回実施する。	ゲンジボタルとヘイケボタルを調査対象種として、それぞれの調査区画内で確認される成虫をカウントし、その年の最大発生個体数を記録・モニタリングする。	御所谷地区、小竹ヶ谷・竹ヶ谷地区、奥竹ヶ谷地区の3地区で行う。		1		5		2								8
カエル類	カエル類の卵塊数を長期的にモニタリングすることで、それを通じて水辺と森林の連続性を評価する。	カエル類の産卵期(概ね1月から7月まで)に合わせて、2週間に1回の頻度で実施し、最低8回実施する。	ヤマアカガエル、ヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルの4種のカエルについて、それぞれ卵塊数をカウントする。	浄化池周辺、カエル池周辺、水田・ため池・水路周辺、池周辺の4地区で行う。	3	5	3								14	11		36
ホトケドジョウ	希少種のホトケドジョウの生息とその水環境を含めた生息環境を長期的にモニタリングする。	4、6、8、10月に各1回で、計年間4回実施する。	目視により生息数をカウントする。	田んぼ、池、二本橋周辺、御所川流域の4箇所で行う。	1		1		1		1							4
水環境	集水域での土地利用の変化や、水環境の変化による下流部への影響について把握することを目的とする。	各季節1回ずつ、1、4、7、10月の年4回実施する。 (1～2日前にまとまった降雨があった場合はエラー値が出やすいので、調査を実施しない(梅雨時期を除く)。増水や積雪などで調査地点に立入りが困難な場合にも調査を中止する。)	水環境調査項目は、水温、水位、pH、COD等とする。	湧水点、合流地点や集水地点(ため池等)、汚染源の流入地点、調査地域の水系における最下流部(出口)、指標種群調査の調査地点等、4箇所で行う。	1			1			1			1				4
その他	緑地の生物多様性を調査することを目的とする(モニタリング項目以外)。	任意で、植生調査、水量調査、チョウ観察などを行う。	目視や簡単な自作の調査用具を用いる。	緑地全域、水量調査は水路を網羅する。	22	20	17	19	15	17	15	13	15	12	13	13		191

(3) 保全管理計画の策定

鎌倉広町緑地が都市林として生物多様性回復と公園利用の両立を図るため、基本計画を原則としつつ、緑地全体の保全管理計画の策定するための協議会を立ち上げました。

保全管理計画書には、維持管理の目標、維持管理・モニタリング・評価の手法を記載する予定です。第4四半期に学識経験者を含む第1回協議会を開催し、プロジェクトに関する共通認識を図りました。

この保全管理計画が、行政、市民、学識者が協働して緑地を都市林として保全していくベースとなります。

(4) その他事業

その他の事業として「樹木オリエンテーリング」、「森のサポーター制度」を行いました。

2. 都市林づくりの活動を通じて、自然環境の重要性について、多くの人々、とくに次代を引き継ぐ青少年の環境教育を支援するための事業

(1) 環境教育支援

5つの会の協力のもと、幼稚園から大学までの教育機関に対し、広町緑地の豊かな自然を活かした学びへの支援を行いました。

地元の公立小中学校、支援学校を対象に学習支援を行い、延べ11教育機関、60回以上、3,500名以上の児童・生徒に広町緑地での体験学習を提供できました。



写真 1 児童による木道のコケ清掃

表 3 広町緑地環境学習実績

	児童・生徒数	教員数	保護者数	特記事項
第1四半期（4-6月）	1,359名	62名	26名	田んぼの代掻き体験など
第2四半期（7-9月）	234名	49名	6名	夏休み期間のため件数は少数
第3四半期（10-12月）	1,661名	90名	38名	探究学習等の複数回利用が増加
第4四半期（1-3月）	380名	12名	22名	年間の成果まとめ・発表への発展
年度累計（延べ数）	3,634名	213名	92名	

表 4 体験作業内容の例

体験作業内容	実施校（ ）内は学年	作業担当部門
水路の整備	西鎌倉小（2）	管理事務所
落ち葉かき（たい肥作り）	西鎌倉小（2）	畑の会、田んぼの会
木道のコケ取り	西鎌倉小（2）	管理事務所
園路の整備（奥多ヶ谷）	西鎌倉小（2）	散策路の会
畑・田んぼの手入れ	腰越小（5）、七里ヶ浜小（3）、西鎌倉小（2）	畑の会、田んぼの会
植物（ノシラン）の防除作業	藤沢支援学校鎌倉分教室職業サービス班	自然観察の会

3. 鎌倉広町緑地を拠点として行う各種イベントの企画運営事業

(1) 祭り

4つの祭イベントを開催しました。概要を以下にまとめます。

表 5 祭イベントの開催状況

実施日	名称	参加者数	主催
5月17日	植樹祭	参加者数 41 名	森の会
6月14日	田植え祭	参加者数 288 名	田んぼの会
10月4日	稲刈り祭	参加者数 178 名	田んぼの会
11月15日	収穫祭	参加者数 676 名	収穫祭実行委員会

(2) 講座・教室

大豆、藍など広町の収穫物を利用した食べ物の料理など、広町の自然を体験できる講座等を開催しました。

表 6 講座・教室の開催状況

実施日	名称	参加者数	主催
5月11日	豆腐作り教室	参加者数 21 名	畑の会
5月3日	春の野草クッキング	参加者数 8 名	事務局
5月24日	広町の初夏の野草をクッキング①	参加者数 12 名	
6月7日	広町の初夏の野草をクッキング②	参加者数 9 名	
9月27日	秋の野草クッキング	参加者数 6 名	
10月18日	昆虫食クッキング	参加者数 3 名	
8月24日	藍染め教室	参加者数 24 名	畑の会
11月11日	こんにゃく作り教室	参加者数 13 名	畑の会
2月22日	そば打ち教室	参加者数 24 名	畑の会

(3) 広町緑地ガイド

市民の会会員がガイドとなり、四季折々の広町の自然を案内しました。

表 7 広町緑地ガイドの開催状況

実施日	名称	参加者数	主催
5月4日	大桐と藤の鑑賞会	参加者数 14 名	散策路の会
10月19日	秋のチョウの観察会	参加者数 14 名	自然観察の会
1月25日	冬の野鳥観察会	参加者数 19 名	自然観察の会

(4) 子ども向け体験教室

小学生以下の子どもを対象に広町緑地内でのワークショップや観察などでその自然に触れるプログラムを開催しました。

表 8 子ども向け体験教室の開催状況

実施日	名称	参加者数	主催
4月27日	広町緑地ハイキング	参加者数合計 56 名（内 子ども 24 名）	緑の探偵団
7月13日	水辺の生き物観察会	参加者数 55 名（内 子ども 22 名）	自然観察の会
8月9日	夜の昆虫観察会	参加者数 24 名（内 子ども 13 名）	自然観察の会
10月5日	どんぐり工作	参加者数 15 名（内 子ども 8 名）	森の会
12月14日	クリスマスリース作り	参加者数 16 名（内 子ども 9 名）	森の会
1月25日	麦踏みと落ち葉かき	参加者数 30 名（内 子ども 13 名）	畑の会

4. 鎌倉広町緑地の指定管理に関する事業

(1) 利用者サービス

① ボランティア募集の改善

昨年度は応募者に対し、まず説明会を実施していました。今年度は、現場作業の楽しさを感じてもらうことに主眼をおき、5つの会の活動にゲストとして参加する作業体験を基本とする方式に変更しました。「広町緑地ボランティアのしおり」によって歴史や活動の概要説明、活動スケジュール等をお伝えすることとしました。年間で22名が新たにボランティアとして各会に参加されました。



写真 2 ボランティアのしおりと 初心者マーク

② ホタル観察期間対応

6月7日（土）から6月29日（日）の土日は、管理事務所の利用時間を延長し、トイレ対応と来場者説明を行いました。開放終了時刻を、昨年度までの夜8時から8時15分に延長し利用者の利便性向上に努めました。

また、混雑時の安全対策として、昨年度から開始した木道末端部の退避スペースの設置を、今年度も行いました。前回からの改善点として、退避スペースの通行方法の案内板(照明付き)を三か所に設置することで安全確保に万全を期しました。

来場者630名を記録した日にもトラブルはありませんでした。今後もオーバーユースが懸念されるため、継続して対策を検討していきます。

③ 人畜共通感染症に関する普及啓発の実施

野生動物との接触により感染する病気があるため、「人畜共通感染症」に関する環境省パンフレットを管理棟廊下入り口部で公開することで、来園者の安全確保に努めました。

④ 動植物の捕獲・採取等の改善

広町緑地は、都市公園でありながら都市林として生態系を保全する緑地であるため、来園者による動植物の持ち込み・持ち出しを防ぐための看板を掲示しました。この制作にあたっては、条例に則る決まりの表示とともに「持ち込まない・持ち出さない」の原則を分かりやすく伝える配慮を行いました。



図 2 「持ち込まない・持ち出さない」の原則を説明した看板

⑤ 園路標識の設置

救急搬送時の発生場所の特定をしやすくするため、現在の案内板に加え園路標識を散策路沿い約150m 間隔で設置しました。あわせて、火災防止の禁煙を呼びかける掲示の更新・増設を行いました。



写真 3 園路標識(ex. 御所谷)

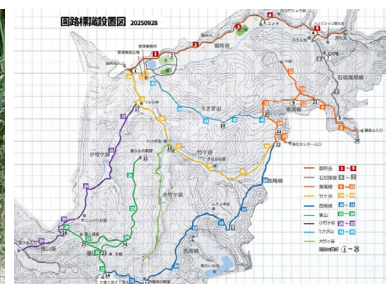


図 3 園路標識設置図

⑥ 案内看板のリニューアル

西鎌倉駅からのご要望に応えるため、古くなっていた道案内を分かり易い表示のものにリニューアルしました。モノレール西鎌倉駅改札付近とガスト駐車場壁面の2か所の対応をしました。

⑦ 自販機の設置

ダイドードリンコ製「LOVE the EARTH」ベンダーの自販機を令和6年12月から設置。令和7年度の実績は以下の通りでした。

販売数量：2,194本 売上：310,177円（法人収入：81,888円）※ スクールコラボファンドへ売上の2%

⑧ アンケートの実施

管理棟廊下にアンケート用紙を置き任意に記入いただいているアンケートです。令和7年度は85人から回答がありました。

- 来園者の男女比：女性 59%、男性 33%、回答なし 8%
- 来園者の住まい：鎌倉市内 59%、鎌倉市外 41%
- 来園のきっかけ：以前から知っていた 59%、知人の紹介 13%、ホームページ 6%など
- 来園の頻度：月に数回 27%、年に数回 26%、週に数回 20%、初めて 20%、毎日 7%
- 良かったもの：自然環境 27%、樹木管理 13%、園路 12%、田畑 11%、スタッフ 8%他
- 『また広町に来たい?』：すごくそう思う 67%、そう思う 25% など

(2) 施設管理

① 公園外周部管理

令和7年度の要望件数は51件ありました。要望に応じた確認作業（55回）を実施し、前年度からの繰り越し4件を含む54件について対応しました（次年度への繰り越しは1件）。

また、定期的な外周部パトロール（34回）により、周辺住宅に隣接した危険木・支障木等について47件対応し、除草および灌木処理は10件実施しました。

さらに、公園開園前に設置された外周部のフェンスやロープ柵の傷みが激しくなっており、御所ヶ丘住宅との隣接部分のロープ柵に関しては修理を完了しました。

② 樹林地管理

来園者の安全を確保するために、外周路、園路のパトロールを71回実施し、園路周りの樹木の手入れを21回、危険木の伐採等を33回、実施しました。また、ウルシ林の枝払いと高木剪定を、それぞれ3回実施しました。

③ 緑地管理

来園者の歩きやすさを確保するため、園路沿いの除草等を33回実施しました。また、ボランティア作業による樹林地の下刈りを19回（主に森の会が担当）、ボランティア作業による植生保護区域の草刈りを46回（主に自然観察の会が担当）実施しました。

④ 湿地部及び池の管理

湿地部の管理及び除草については、維持管理を 23 回実施しました（自然観察の会）。

⑤ 花壇管理・芝生管理

管理棟前の花壇には広町で観察できる植物を植えており、季節に合った植栽の管理を 27 回実施しました（自然観察の会）。芝生広場の草刈りは 1 回、一部分のエアレーションを 1 回実施しました。

⑥ 河川護岸・水路管理（各所劣化に対する対応）

開園後 10 年が経過し、施設の劣化・変化が問題となりつつあります。現在問題としている部分は、御所川護岸崩落による園路への浸食と、木道下部の水路が大雨時に掘削され、一部のアンカー部分が 0.2m 程露出してしまっていることです。また、大えのきより上流側の護岸についても補強が必要です。令和 8 年度中に対応策の検討を進めたいと考えます。



写真 4 園路近くまで浸食あり

⑦ 外来種（アライグマ）の駆除

広町緑地内において、アライグマの足跡が多数発見されたため、捕獲檻を 3 箇所に設置し、通年で駆除に取り組みました。これまでに 33 頭のアライグマを捕獲しました。

5. 鎌倉広町緑地を利用して行う保健、福祉活動の支援事業

(1) 収穫物の福祉施設への寄付

腰越地区及び西鎌倉地区社会福祉協議会他に収穫物（米、さつまいも、さといも他）を寄付し、独居高齢者のためのお弁当などに活用されました。

提供先：（社福）ほしづきの里、（一社）ふらっとカフェ、腰越地区社会福祉協議会、西鎌倉地区福祉協議会、（社福）あおぞら園他

(2) 藤沢支援学校鎌倉分教室 職業体験の実施

コロナ禍で中断していた職業体験を再開しました。緑地保全と教育の両面で有意義な取り組みとなりました。

活動内容：ウサギ山園路沿いにおける外来種（ノシラン）の駆除作業

成果：生徒 15 名により 45L 袋で 10 袋分以上の根を駆除

6. 鎌倉広町緑地に関する情報提供事業

(1) 「広町からの風」の発行

2025年6月30日第70号 「広町の森はこうして『今』も守られています」

2026年3月31日第71号 「広町の世界学習」

(2) 広報紙「ひろまちだより」の発行

夏・秋・冬・春と年4回発行し、それぞれ広町で見られるヤゴ、秋の鳥 モズ、冬の野草、ウグイスとメジロを特集し、読み物としても楽しめる編集としています。

(3) 花ごよみの提供

季節ごとに広町で観賞できる花を掲載しています。

(4) ホームページ、SNS の活用

ホームページのリニューアルを行い、施設紹介などを充実しました。ボランティア活動やイベントの紹介などを随時行いました。また、広町の貴重な動植物を中心に紹介してきたXやFacebookに加え、令和6年8月から開始したインスタグラムは順調にフォロワー数が増加し、2026年3月31日現在、669名を数え、主要なSNSに成長しました。



図 4 リニューアルホームページ

(5) 管理棟内での掲示・展示

廊下展示： 令和7年6月から「広町の四季の蝶」展

令和8年3月から「嫌われている(?)いきものたちの写真展」

学習室内展示： 巣の展示と解説／岩田氏の写真集展示

(6) 外部のイベントへの参加

「きららフェスティバル腰越」 10月18日～19日（腰越学習センター）

「つながりフェスタにしかま2025」 11月23日（西鎌倉小学校）

7. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 地域住民等との連携事業

従来、広町の多様なステークホルダーを一堂に集めて行っていた緑地懇話会を、その利用形態などからセグメント別に行うこととし、その連携にかかる意見交換をきめ細かく行うことができました。



写真 5 緑地懇話会の様子(地域)

表 9 令和7年度 広町緑地懇話会の開催状

セグメント	開催日	参加人数	広町出席者
教育機関	7/24(木)	15名	3名
活動団体	9/17(水)	3名	5名
地域	9/24(水)	7名	3名

(2) ファンドレイジング (SOMPO ホールディングスからの寄付)

本年度も SOMPO ホールディングス(株)から、同社の「SOMPO ちきゅう倶楽部社会貢献ファンド」による寄付金5万円をいただきました。(同ファンドは、社員有志の毎月の給与から一定額控除した寄付金で、支援対象は社員の推薦により決まります。)

(3) 助成金受託に関する事業

かまくら緑の探偵団助成金（かながわトラストみどり財団）を受け、子ども関連事業として実施しました。

以上